

令和5年度第1回江別市経済審議会会議録（要旨）

日 時	令和5年7月6日（木）14:00～16:00
場 所	江別市民会館（37号室）
出席者（13）名	会 長/ 井上誠司 副会長/ 藤本直樹 委 員/ 森邦恵、伊藤環、千葉幸子、中野亮二、岸本佳廣、若狭洸介、 杉野邦彦、青山孝広、渡部正廣、光永大希、小原愛香
事務局（12）名	経済部長、経済部次長、企業立地推進室長、商工労働課長、観光振興課長、農業振興課長、 企業立地課長、商工労働課主査（2名）、農業振興課係長、ほか2名
欠席者（4）名	委員/鈴木貢、佐々木尚弘、奥村幸広、岡村恵子
傍聴者（0）名	—
議事事項	（1）経済部 取組基本方針及び主要事業(予算)について （2）第2次江別市観光振興計画の策定について （3）第5次江別市農業振興計画の策定について

会議録

商工労働課長	開会のことば
副市長	委嘱状交付
副市長	挨拶
各委員	自己紹介
経済部長	挨拶 経済部職員紹介（課長職以上挨拶）
商工労働課長	会議成立報告
経済部長 （仮議長）	次第の3になりますが、会長及び副会長の互選についてでございます。審議会条例の第5条により、会長及び副会長は委員の互選となっております。各委員の皆様から、会長・副会長の選出について、何かご意見はございますか。
岸本委員	事務局案はございますか。
商工労働課長	それでは事務局から案をお示しさせていただきます。事務局案といたしましては、会長を井上委員、副会長を藤本委員にお願いしたいと存じます。
経済部長	ただ今の事務局案について、何かご異議ございませんでしょうか。
一同	異議なし。

会長	次第の4、議事事項の(1)、経済部取組基本方針及び主要事業について、事務局よりご説明をお願いいたします。
経済部次長	<p>それでは私から、令和5年度の経済部における取組の基本方針、主要事業の概要についてご説明申し上げます。</p> <p>経済部の取組は、「都市型農業の推進」、「観光による産業の振興」、「商工業の振興」の3つの柱によって、地域経済の活性化を目指すもので、経済部で担当する予算額は、おおよそ24億7600万円となっております。</p> <p>経済部の組織についてであります。経済部は、次長ラインと企業立地推進室長ラインとの2系統となっており、次長ラインには、主務課である商工労働課と観光振興課、農業振興課が、企業立地推進室長ラインには、企業立地課が置かれています。</p>
経済部次長	<p>各課毎の主な事業や予算についてご説明します。</p> <p>農業振興課では、第6次江別市総合計画における農業分野の基本方針「都市型農業の推進」に関する業務を担当しており、「担い手の育成」、「江別産農畜産物のブランド化」、「鳥獣被害の軽減」、「都市と農村の交流促進」などに取り組んでおります。</p> <p>そのうち主な事業として、「都市と農村交流事業」は、江別産農畜産物の地産地消や、生産者と消費者との交流の取組を支援し、また、江別の農畜産物の魅力を感じていただけるよう、積極的に広報活動を進めるものです。</p> <p>具体的には、生産者や関係者で組織される江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会の活動として、直売所などのマップの作成や利用促進のキャンペーンに取り組むほか、野菜の収穫体験や野菜料理を食する野菜満喫体験ツアーの実施、農業者が製造する加工新商品の開発に対する補助などを行います。</p> <p>その他、指定管理施設によって都市と農村の交流を図ることを目的とする「都市と農村の交流センター(えみくる)管理運営事業」、江別産小麦やえぞ但馬牛など、地域ブランドの維持・拡大や安定供給のための「江別産農畜産物ブランディング事業」、食育推進計画に基づき、小・中学生を対象とした食育事業を実施する「食と農の豊かさ発見実践事業」などに取り組みます。</p>
経済部次長	<p>続いて企業立地課では、条例に基づく補助制度による、オフィスビルや工業団地等への企業立地の促進や、海外バイヤーとの商談会を開催するなど、食関連企業の輸出・海外展開の支援などに取り組めます。</p> <p>主な事業である「企業立地等補助金」は、江別市に工場などを新築・増築した企業や、サテライトオフィスを設置する企業に対し、補助金を交付するもので、立地、雇用、下水道使用料、設備更新及び本社移転に対する補助のほか、昨年度からは新たにサテライトオフィス設置へも補助を広げたところです。</p> <p>その他、市内での創業や事業拡大を目指す方を対象に、相談員によるアドバイスや、セミナー開催などの支援を行う「創業スタートアップ支援事業」、江別駅前の「えべつみらいビル」の3・4階を借り上げ、コールセンターや各種オフィスの立地を促進する「江別駅前再開発事業」などに取り組みます。</p>
経済部次長	<p>続いて観光振興課では、観光振興計画に基づいて、令和3年10月に、法人として設立されたえべつ観光協会と連携し、観光振興や特産品販路拡大などの物産の振興に取り組めます。</p> <p>主な事業である「えべつ観光協会支援事業」では、えべつ観光協会が取り組む、えべつマルシェの開催補助や、周遊促進を目的としたリアル謎解きゲームの実施委託などにより、えべつ観光協会を中心とした、民主体の観光推進を支援し、特に市近郊からの誘客を推進します。レンタサイクル事業は、主に野幌駅を拠点に自転車を周遊目的に貸し出す取組で、試行の年を含め、今年度で3年目を迎えます。</p> <p>次に、「観光振興計画推進事業」は、江別市観光振興計画を基に、交流人口の創出と地域経済の活性化を図るための取組を進めるものですが、現行の計画は、今年度が最終年度であることから、第2次計画を策定いたします。本件の詳細は、2件目の議題にて改めてご説明いたします。</p> <p>その他、「江別アンテナショップGET'S管理運営事業」や食を中心とした特産品等の商品開発・販路拡大を支援する「食を軸とした地場産品販路拡大支援事業」などを進めてまいります。</p>
経済部次長	<p>続きまして商工労働課では、主に、中小企業の生産力向上に向けた、江別商工会議所や各金融機関と連携した各種融資制度の運用や、市内企業等の経済活性化のための取組に対する支援をしております。</p> <p>また、歴史的価値を守るために保存すべきとされた旧岡田倉庫等を拠点施設として、整備、活用し、地域の活性化を図る、かわまちづくり計画を進めてまいります。</p> <p>そのほか、雇用促進と市民の市内企業への就労を目的とする、求職者と市内企業のマッチングの取組のほか、消費者相談の活動や、消費者被害の防止に向けた啓発に取り組めます。</p> <p>今年度の主な事業である「かわまちづくり事業」では、国が実施する千歳川の堤防整備に伴い、移設が必要となる旧岡田倉庫の今後の活用方法を含め、河川敷地や当該倉庫を拠点とした地域づくりについて、地域の方々と連携して検討を進めるとともに、倉庫の解体工事など移設に向けた準備を進めます。</p> <p>その他、地域経済の活性化を目的に、研修・研究活動や、地域イベントの開催等を、補助により支援する「商工業活性化事業」、中小事業者に対する支援として、低利の融資制度を運用するなどの「中小企業資金融資事業」、就労支援拠点「江別まちなか仕事プラザ」を設置し、女性やシニア層等の社会参加促進と、企業の雇用確保・拡大に向けた取組を推進する「江別まちなか仕事プラザ事業」などに取り組みます。</p>
会長	ただいまの説明に関して、ご質問等ございますでしょうか。

杉野委員	<p>江別まちなか仕事プラザ事業では、就労支援をやられているとお聞きしましたが、コロナ禍が一段落して、経済の動きが活発になってきています。それは良い事ですが、コロナの中で退職した人はなかなか戻ってきません。経済を成長させる原動力になるのはやはり人なので、雇用に対する課題は非常に大きいと思います。働いていただけの方が集められないという課題はどこも抱えているのではないのでしょうか。</p> <p>そのため、この課題については、助成資金などが当然必要となり、子育て支援も関わってくると思います。ただそれ以上に即戦力として雇用をきちんと確保していく事が直近の大きな問題となっており、日本人が集められないという点で、外国人の雇用を進めていかなければいけませんので、きちんとテーマを持って行政が進めていくことが大事だと思います。</p>
会長	<p>雇用の確保について、江別市は札幌市に隣接しているため、労働市場が発達しているという点では、道内の他の市町村に比べて非常に優位かと思えます。それでも、労働力不足という問題があるのではないかと、またそれへの対策が必要ではないかというご意見かと思えます。これに関して、市の皆さんから、対応策等ご意見がありましたらご発言をお願いします。</p>
経済部次長	<p>まさに、事業主の目線からのご意見かと存じます。今後コロナの収束の兆しが見え、ステージが明らかに変わってくるかと思えます。そして市長の「人にも企業にも選ばれるまち」というスローガンを受け、今まさに杉野委員からご指摘いただいた点を踏まえながら、経済部も第7次総合計画の策定に当たるよう指示を受けているところです。</p> <p>江別まちなか仕事プラザ事業を始めた当初は、一つの取組として、「働きたい女性やシニア層」に向けた取組としていましたが、情勢が変わってきている部分もあるため、今後は今ご指摘いただいた雇用の確保も含めて、改めて企業の皆様に調査をかけていく予定です。意見の中には、外国人の雇用の問題や働きたい人はいても市内の雇用結びついていないというマッチングの問題もあるかと思えます。そのような点も精査しながら、第7次総合計画に反映をしまいたいと思っております。</p>
会長	<p>その他何かありますでしょうか。</p>
岸本委員	<p>千歳のRapidusについて、千歳はもちろん北海道も札幌市も新たに対応部署が設置されると聞いています。札幌、千歳、苫小牧に江別もぜひ乗っかりたいですし、江別市として役割を担えるのではないかと思います。これについて江別市の対応が何かあればお聞かせください。</p>
企業立地課長	<p>質問いただきましたRapidusの関係ですが、今色々動きが出てきているところであり、私どもも千歳で行われている説明会に参加するなど情報収集に努めているところです。</p> <p>動きとしては、Rapidusの関連企業が進出しようとしてきていることに伴い工場建設等に関わる部分で、建設作業員の方の住居が不足しているといった話が聞こえてきます。それらの部分について、現状江別市の具体的なニーズは聞こえてきていませんが、今後情報収集に努めていく中で、江別市としてできることを探っていきたいと考えております。</p>
会長	<p>Rapidusに関しては、熊本の菊陽町で先発していますが、菊陽町や隣接している大津町では地価の上昇や労働市場が活性化するなどといった情報も伝わっています。</p> <p>この江別も国道337号線で直結しており、恩恵を受けるような状況にあると思います。いわゆるライバルに当たるような周辺市町村が有力な企業を誘致をするなど積極的な働きかけを行っていると思いますので、江別も出遅れないように企業または地域に対して積極的に働きかけを行っていただけたらと思います。</p>
会長	<p>その他いかがでしょうか。</p>
副会長	<p>千歳のRapidusに関して、これから色々なビジネスチャンスが生まれていくだろうということは、同意見です。</p> <p>元々江別は今から35年程前に、RTN、リサーチトライアングルノースという先端技術を活用した新しい産業を起こし、その一環として北海道情報大学も開学をしたと理解しています。</p> <p>そのため、千歳、札幌、江別、元々繋がりがあった三つの地域の連携や情報交換をもっと積極的に進めていければ、色々な地域と、ライバルであり、協働する仲間として、色々な仕事のチャンスが生まれてくるのではないかと思います。</p> <p>また、杉野委員から雇用に関して、特にコロナ後、経済が回り出しても、人手不足の課題があるというお話がありました。大学教員の立場として申し上げますと、地元志向の大学生はそれなりに存在しています。ただ、我々教員としても、就職をサポートする事務職員としても、毎年1人でも継続的に雇用して下さるような企業体力のある会社さんが江別にはあまり見当たりません。</p> <p>ですから地元で、例えばこういう分野で就職したいと思っても、今年は求人の方が無いというような事情もあるかと思えますし、学生の側に江別の会社の情報自体が伝わっていないということもあるかもしれません。その辺の情報発信や、地元で就職したくても就職先が見つからない学生とのミスマッチを解消するような手だてを経済部や大学連携の担当をしている企画政策部の事業の中でマッチングができるかもしれないと思います。</p> <p>外国人労働力についても、東川町が公設公営で日本語学校を珍しく直営でやられていて、様々なテクニックを使って工夫されていますので、新しい発想で新しい仕掛けを前もってしていくべきという杉野委員の意見には賛同します。</p>

<p>会長</p>	<p>私の方から商工労働課のかわまちづくり事業に関して意見を述べさせていただきます。 6月末に、市内の愛好家の皆様がかヌ一部を結成して、かわまちづくりを展開している場所でかヌプロジェクトを推進しているという話を伺いました。 こうした、船に実際に乗って川巡りをするといった川を導入した地域振興は、非常に効果をもつということが全国各地で確認できます。よく取り上げられるのは歴史的街並みづくりを実践している市町村です。 千葉県香取市では、旧佐原市内の歴史的街並み周辺の船巡りだけでなく、利根川でも水門をめぐるクルージングツアーを企画しており、かなりの観光客の獲得に成功してようようです。このような例のとおり、何らかの形で実際に船に乗っていただき、地域資源に直接触れるような機会を設けた方が良いかと思ます。 また、大学や高校のかヌ一部の練習や合宿を受け入れて、地域振興に結びつけている例があります。新潟県内の阿賀野川流域市町村や、道内だと南富良野町が該当します。南富良野町では、かなやま湖が地元高校のかヌ一部の練習場となっています。江別にもかヌ一部がある大学がありますので、そのような所に練習場を提供すれば注目を浴びるのではないかと思います。 以上のように川の港を拠点とした、地域振興に乗り出したところは全国各地にありますので、江別もこうした先進的かつ先行的な事例を参考にしながら今後の取組を推進していければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>続きまして、議事事項（２）、第２次江別市観光振興課計画の策定について、観光振興課の方からご説明をお願いいたします。</p>
<p>観光振興課長</p>	<p>第２次江別市観光振興計画の策定につきましてご説明いたします。 まず計画の趣旨でございますが、平成３０年３月策定の江別市観光振興計画が、今年度をもちまして終期を迎えます。そのため、現行計画の取組の検証や現状の調査分析を元に、当市の観光に携わる全ての人に対する観光振興の指針として、第２次計画を策定します。 次に計画の位置付けについてですが、江別総合計画のまちづくり政策のもと、観光分野での具体的な施策を個別計画として策定します。 計画期間ですが、現在策定中の第７次江別総合計画との整合性を図り、令和６年度から令和１０年度までの５年間とします。 続いて策定方法ですが、計画策定支援事業者を選定し、当該事業者の支援によって、現状や課題等の分析、素案の作成を進めます。計画策定にあたりましては、第２次観光振興計画策定委員会を設置し、そこで計画案を審議いただき、パブリックコメントを反映しながら進める予定です。 スケジュールにつきましては、６月に計画策定支援事業者選定のプロポーザルを行いました。あとは記載の通りでございます。概ね３月に計画を決定する予定です。 最後に第７次江別市総合計画案につきましては、現時点での観光分野の方向性について抜粋しておりますので、後ほどご参照ください。 なお、現行計画の策定につきましては、経済審議会への諮問答申といたしましたけれども、今回の第２次計画策定につきましては、先ほどご説明しました通り、策定委員会を設置しまして、そこでご審議いただく予定です。策定委員会には、この経済審議会の中から、藤本委員と岡村委員にご就任いただく予定でございます。計画策定の進捗状況につきましては、今後開催されます経済審議会の中でご報告させていただきます、ご意見賜りたく思ます。</p>
<p>会長</p>	<p>ただいまの観光振興課からの説明に関しまして、ご意見ご質問等ございますでしょうか。これから取り組まれます副会長、何かコメントございましたらお願いいたします。</p>
<p>副会長</p>	<p>これからスタートするところですので、進行の状況を皆様にご報告しながら、ご意見をしっかり吸い上げて、観光振興計画に反映させる努力を進めてまいります。</p>
<p>会長</p>	<p>私からも質問させていただきますが、前回の計画の達成度合いについて、検証はされているのでしょうか。</p>
<p>観光振興課長</p>	<p>達成度合いについて、次の策定委員会の中でも検証を進めてまいります。令和２年に始まりましたコロナの関係で、事業の進め方が非常に難しいものがありました。ただ、小さい取り組みにはなりますが、レンタサイクル事業や少人数で日帰りで行える謎解きゲームの事業など、そういった形で事業を進めることができたと思っています。 また林木育種場旧庁舎には、サッポロ珈琲館さんに入っただきカフェになるなど、歴史的価値のある建物などを観光資源として活用する環境が整ってきました。実施できなかった取り組みもありますので、そこは委員会の中で、きっちり検証してまいりたいと考えております。 先ほどお話いただいたかわまちづくりの動きや改修中の旧町村農場など、小さな良いコンテンツはたくさんありますので、前回計画の反省を活かしながら策定委員会の皆さんと協議していきたいと思っております。</p>

会長	<p>やはり江別は農業と煉瓦だと思います。この2つの基幹産業を連携させるというテーマを掲げた前回の振興計画は、非常に良かったと思います。</p> <p>ただ農業と煉瓦が連携できた取組があったかという疑問に思います。例えば農業と煉瓦の連携が可能なものとして暗渠が挙げられますが、暗渠は農地に施工されますので、それを実際に施工しているシーンを観光ツアーの一環として見学してもらえれば、江別の煉瓦はこんなにも北海道の基幹産業である農業に役立っているんだということが理解してもらえるのではないかと思います。</p> <p>それから食との連携になりますが、煉瓦をモチーフにしたような食べ物やご当地グルメを生み出しPRしていくことはどうでしょうか。江別には既に「煉化もち」がありますが、それに続くご当地グルメとして、市内のカフェなどの協力を得て、江別産小麦を使った煉瓦型のシフォンケーキを作ることも考えられます。前回の観光振興計画のテーマであった煉瓦と農業・食が連携した取り組みが十分に展開していないのではないかと感じておりますので、引き続き検討をお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>その他、観光に関して、皆さんの方からご意見ございますでしょうか。</p>
杉野委員	<p>農と煉瓦が結び付くようなことと言いますと、江別産小麦でつくった美味しいピザを江別の煉瓦でつくったピザ窯で焼くといった食育の部分と地域の特長などを結びつけて、観光的な事業にしていける可能性はあるかと思えます。</p> <p>例えば、満寿屋商店というパン屋さんは、いわゆる軽トラックを改造してピザ窯を積んで、色々なところを回って体験学習をやってます。</p>
会長	<p>その他ご意見はございますでしょうか。</p>
伊藤委員	<p>軽トラックの話に関連しまして、今の8丁目通りが数年前に煉瓦をうりにして再開発されたと思うのですが、あまり活性化されていないと感じます。</p> <p>他市の事例になりますが、シャッター商店街を活性化するために、商品を積んだ軽トラックが曜日に合わせて集まって人を呼び込んだことで活性化されたという記事を読んだことがありますので、商店街ではなくても、江別小学校の跡地などで、曜日を決めて朝に集まるなどのイベントをやってみるのも良いかと思えます。</p>
会長	<p>他にご意見はございますでしょうか。</p>
若狭委員	<p>観光について、私は仕事柄色々な地方に行かせていただいて、色々な美味しいものを食べ歩いているのですが、江別と釧路や江別と旭川という形で比較して見て歩いた結果、江別にはたくさん美味しいお店があるなと思えました。「特筆するところがないかもしれない」「観光寄りの町じゃないかもしれない」ということが皆様の頭の中にあるかもしれませんが、私の目線では、こんなに美味しいお店がたくさんあるじゃないか、と感じています。</p> <p>江別市内には、スイーツのお店が点在していますが、観光資源というところで見ると、例えばデパートのようなイメージの建物を公共事業で作って、江別市内の美味しいスイーツを販売しているお店の出張所やアンテナショップを作ってみたらどうかとずっと思っていました。</p> <p>一つ一つの点は魅力的なところが多いですが、江別市として大きな集合体のものを作るとい形になると、30代の子育て世代が子供を週末に連れて行ったりできるような店があったら良いという話は家庭内でもよくしております。</p>
会長	<p>個の集合体を集約して食の地域振興を行っている例としましては、砂川スイーツロードなど、周辺地域にも注目を浴びている事例がありますので、参考としていければ良いかと思えます。</p> <p>また、かつて札幌市ではスイーツのコンテストを開催していました。札幌市だけでなく、全国各地にスイーツをに焦点を当てた取り組みがございます。新たな道が開けるかもしれませんので、観光振興の一つの手法として検討するのも良いと感じました。</p>
会長	<p>続きまして議事事項の(3)、第5次江別市農業振興計画の策定について事務局よりご説明をお願いいたします。</p>

<p>農業振興課長</p>	<p>当審議会に諮問を予定しております、第5次江別市農業振興計画の策定についてご説明いたします。</p> <p>まず策定の経緯でございますが、平成31年3月に策定いたしました、第4次江別市農業振興計画の計画期間が今年度で終了することから、引き続き各種計画と整合性を図りながら、必要な農業施策を推進するため、第5次江別市農業振興計画を策定するものであります。</p> <p>次に策定の根拠でございますが、この江別市農業振興計画は、農業振興に対する市町村の責務を明確にした国の「食料・農業・農村基本法」、こちらの趣旨を踏まえまして、地域の実情に応じた総合的な農業振興施策について定めているものでございます。</p> <p>続いて策定の方針でございますが、農業振興計画の上位計画に当たりまして、現在策定が進められております第7次江別市総合計画において、農業分野の基本方針案といたしまして、都市近郊型農業の推進とし、主な施策を、①農業経営の安定化、②地産地消の推進、③持続可能な農村環境づくり、④農畜産物の高付加価値化、として策定する方針で進めておりまして、これを踏まえ、第5次農業振興計画においても、同様の方針を基本として策定する予定となっております。なお、策定に向けては、この江別市経済審議会条例第2条の規定に基づきまして、当審議会に計画案を諮問するほか、農業者へのアンケート調査等を含め、最終的にはパブリックコメントを実施する予定です。</p> <p>計画の期間でございますが、第7次江別市総合計画と整合性を図るために、計画期間を令和6年度から令和10年度までの5年間とするものであります。</p> <p>最後に策定スケジュールでございますが、概ね今月中に農業者へのアンケート調査を行いまして、9月頃までにアンケート調査結果を踏まえ、関係機関からのご意見をいただく中で、この計画の素案を作成してまいりたいと考えております。その後10月頃に当審議会に諮問をさせていただきまして、10月から11月位にかけて、素案の審議をしていきます。その審議後に、市議会経済建設常任委員会への原案報告を、そして12月にパブリックコメントを実施いたしまして、最終的にそれらの意見を反映させたものを、来年の1月に再度、審議会でご審議いただき計画案の答申をいただく予定です。その後、計画を市で決定いたしまして、最終的には来年の2月に市議会の経済建設常任委員会に報告予定となっております。</p>
<p>会長</p>	<p>皆様から、質問やご意見等ございますでしょうか。農業委員会の渡部委員はいかがでしょう。</p>
<p>渡部委員</p>	<p>やはり、一番難しいのは後継者不足かもしれません。もう40年も50年も昔から後継者不足が続いています。また、若い人の労働力も大事ですが、年配の方達の労働力というのは、物を大切に、一生懸命考えながら工夫してやってくれますし、色々な技術を学ぶ海外の人達は、言葉が通じないですとか、生活環境が違うというふうになるのであれば、元気なお年寄りをお願いした方が良いような感じがします。まだまだ自分ではできる、という年配の方の雇用をもう少し考えても良いと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>労働力不足と高齢者の皆さんの貢献についてのご意見でした。</p> <p>確かに高齢者は技術や知識を持っていますので、そうした方々の活躍の場を提供するというのも一つの重要な手法ではないかと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>6次の計画とこれから計画される7次の案について、全て同じ項目が掲載されている状況ですが、同じものが掲載されるということは、重要であるという理由の他に、これまで取り組んできた計画の達成度が満たなかったのもう1回やるというような意味合いもあるのではないかと思います。</p> <p>計画の達成の度合いは、どのような状況なのでしょう。</p>
<p>農業振興課長</p>	<p>基本的に事務事業等の部分で毎年度、達成状況の方を計画も含めて確認しているところであります。また、令和2年度からコロナの状況に入りまして、実際の農業の生産現場としては、影響は少なかったのですが、残念ながら消費がなかなか喚起されず、特に酪農業で、大きく報道されたのは牛乳や砂糖、お米、これらは外食がなかなか進まず、生産しても売れませんでした。その後ウクライナ情勢に入りまして、今度は物価や原油、生産する上でのコストが上がってしまう状況となっております。売っても安くしか売れないし、量もはけない、今度はコストが上がっているという、本当に苦しい状況になっているところです。</p> <p>計画の中では、生産の基本となります農業経営の安定化、こちらは、特にJAなど、集荷されている団体の努力により、ここ3年は売上としては安定していますが、コスト上昇などの問題もございますので安定という部分では、今はしていないという状況でございます。それ以外の部分では、食育の関係もありますが、やはり地元のを地元の方にまず召し上がっていただいて地産地消を進めるというような部分では、コロナ禍の中でも進んでおります。我々も想定していなかった効果としては、市内にも直売所が10数ヶ所ありますが、コロナによって、一般の店舗に行く機会が減ったのですが、逆に郊外に、都市部の方が来て、直売所の売上が上がるような状況も見られました。</p> <p>大枠としては、計画通り進んでいますが、細かい部分でまだ問題があると考えております。また農業は国の政策転換に大きく左右される分野でございますので、その辺については実際の生産者と相談しながら、新しい計画を作りたいということで、アンケートを進めているところでございます。</p>
<p>会長</p>	<p>その他、農業に関してございますでしょうか。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>江別市の自給率は出ているのでしょうか。</p>

農業振興課長	<p>統計的なものとしては、市内では出ていませんが、都道府県別の人口と生産量で比べると北海道はほぼ100%に近いと言われております。</p> <p>逆に、その生産の一番大きな部分を北海道が担っているということもありますので、北海道から当然、道外の方へ販路を広げ、最終的に日本全体の自給率を支えている形となります。ただ、世界的な情勢の部分もありまして、残念ながら日本全国では今、50%の食料自給率を切っています。近頃ですと、卵は千歳が道内の43%を担っていることは、あまり知られていなかったんですが、そこで病気が起こることによって、自給ができないというような状況になっています。</p> <p>結論としては、概ね達成していますが、北海道は雪が降りますので、基本的には厳冬期には地物はほぼ生産できないものですから、そこは少し自給率が落ちるような形と考えていただければと思います。</p>
会長	<p>カロリーベースの自給率は全国が38%、北海道は毎年200%を超えている状況にあります。江別市は、農業が基幹産業であり農産物の供給量が多く、その反面で都市部を含み人口が多いといった特徴を持っています。つまり、地産地消を推進できるといったメリットをもっているのです。地産地消の推進も検討すべきではないでしょうか。</p>
会長	<p>その他何かございませんでしょうか。</p>
杉野委員	<p>自給率のお話が出ましたが、カロリーベースの他、価値ベースの自給率も大事だと思っております。北海道は確かにカロリーベースの自給率は、200%近くありますが、加工して価値を加えるという部分も高めなければ、北海道の本来の価値は高まらないのではないかと思います。やはりカロリーベースで考えたら、北海道はトップクラスですが、価値ベースで考えると宮崎や鹿児島などの方が高いと感じるため、やはりその辺の考え方を変えていかなければ駄目ではないかという気がします。</p> <p>色々な施策を考える時に、目指すところはここだという戦略や戦術の部分をしっかり見据えてやっていくべきだと思います。</p>
会長	<p>農産物に付加価値を付けて売るということですね。私も「北海道の農産物は素材は良いんだけど」という話をよく聞きます。ただその素材は確かに新鮮で味覚も良く、食味も良く、そうしたものが大量に採れるのがメリットなのかもしれませんが、それが付加価値を付けて売り出されるとなるとまた別の問題ですね。それは全国各地の食品の原料に使われてしまい、その付加価値分が道外の方々の元に行ってしまうという話はよく聞く話です。そのため、付加価値付けて売るというのは、一つの重大な課題だと思います。</p>
会長	<p>その他、農業関係に関してご意見や質問ございますでしょうか。</p>
副会長	<p>食料自給の問題や高付加価値化ということに関連して分かる範囲で教えていただきたいんですが、江別市内の第1次産業で、6次産業化というような取り組みは割と進んでいるのでしょうか。</p>
農業振興課長	<p>現状から申しますと、4、5年前は確かに個人の圃場で作られたものを加工し、直接販売するものもあれば、企業とコラボしているという動きがございました。ただ、江別も農業の担い手が年々減っており、その結果、農地の面積は全く変わらないでいて、作る方がどんどん減っており、労働生産性の効率化をしないと、その農地全体の有効活用が難しくなっています。</p> <p>わかりやすく言いますと、今までは1人で、大体20ヘクタールぐらいの生産で済んでいたものが、極端な例で言えば、1人で50ヘクタールが当たり前になっているという状況でございます。結果として、農作物を作るための時間が以前よりかかるものですから、余力が全く無い状況です。結果として、今までは、ご夫婦で経営されて女性の方が自分で作った野菜等を6次化していた方がいるのですが、最近聞くと、自分の圃場の維持だけで6次化に回す余力がないというような話を聞いております。その中でも、農作業が落ち着いた冬場にやりたいという意見もありますので、私どもからは、市の「えみくる」等の施設の利用を提案していたのですが、興味を持っているものの、根本的な農作業の部分で手一杯ということがあるため、我々としてはまずそこを下支えしたいと考えております。</p>
副会長	<p>今のお話を聞いて、6次産業化を強く推していくよりは、農家さんには良質な農畜産物を作っていただいて、適切な農商工連携をしながら加工や販売をしっかりやっていただくところとも上手く連携しながら、国の施策に乗って付加価値を高めていくのが良さそうな気がしました。どんな分野でも、なり手の問題というのは出てきてしまうので、農業に関して言うと、例えば、酪農学園大学の学生さんがアルバシップのような形で生産や加工をお手伝いしたり、まちづくりプロジェクトの一環として学生が何か協力できるような仕組みを少しずつ定着させるなど、できるところから手を付けていくのも良いのかなと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>確かに農業の大規模化が進み、労働力が不足し、6次産業化まで回せない実態があると思いますし、全道でそうした状況が発生しているというのが現実だと思います。</p> <p>ただ江別は、6次化に取り組んでいる方々がたくさんいます。今日は欠席されていますが、岡村さんの「はるちゃんのトマトケチャップ」や町村農場、トンデンファームなどピンポイント的にはたくさんあると思います。先程若狭委員が発言されましたが、そうしたピンポイント的に取り組んでるケースを集約してPRする状況にないというのが実態じゃないかなと感じます。市にはぜひこのような6次産業のサポートやPRも行っていただけたらなと思います。</p> <p>少し細かい点になるかもしれませんが、農業振興課の主な事業の中に江別産農畜産物ブランディング事業の黒毛和牛育成支援というのがございます。以前は、えぞ但馬牛というブランド名を明記されていたと思いますが、このえぞ但馬牛というのはもう無くなってしまったと理解してよろしいのでしょうか。</p>
<p>農業振興課長</p>	<p>いえ、えぞ但馬牛は現在も生産されています。ただ、これも深刻な問題なのですが、実際に今、農家の方で肉牛を精肉にするまで、何年かかけて育てていただく農家さんが、現在は市内に1人しかいません。経営的にも肉牛農家さんはかなり厳しい状況になっております。なかなかPRも進んでいないのですが、冷凍技術も発達していますので、冷凍である程度ストックした物を使い、販売回数を増やすような形にしております。</p> <p>ただ、残念ながらやはり年に数頭しか取れないという現状がありますので、品質の維持も含めて今進めています。大々的に広げるほどの余力が農家さんの方にもないものですから、そこを協議している状況です。そのため、ふるさと納税等にも、こちらからいろいろ働きかけをし、掲載いただいているということで、やり方を少し変えさせていただいている状況でございます。そのため、依然としてえぞ但馬牛はあるのですが、市販されている量は寡少なものですから、年に数回の販売会やインターネット、そしてふるさと納税等の時期を決めて、全国に発送するような対応で進めている状況です。</p>
<p>会長</p>	<p>残っているということですね。そうであるならば、ブランドは地域をアピールする有力な手法となりますので、引き続きえぞ但馬牛というブランド名は明記するべきじゃないかなと思います。それが江別の知名度をアップさせる一つのきっかけになると思います。</p> <p>全国各地見渡すと、年に1回、2回位しか出荷しない希少価値をうりにしている牛肉の産地があります。例えば、山口県の見島牛や鹿児島県の口永良部島の和牛などが該当するのですが、年に何回かしか売られていないので、熱狂的な牛肉ファンがその時期に訪問し、実際に食べた後に情報発信してくれるのです。そうした希少価値をうりにするというのも一つの手だと考えますので、今後検討いただければと思います。</p> <p>もう1点伺いたいのですが、同じくブランディング事業ということで「きたほなみ」の作付けを推進するとありますが、以前までは初冬まきの「ハルユタカ」がその該当品種だったと思います。今後に関しましては「ハルユタカ」ではなく「きたほなみ」をメインにして推進していくということになると理解してよろしいでしょうか。</p>
<p>杉野委員</p>	<p>「ハルユタカ」は北海道の稀有な強力小麦で、この品種は江別の特産小麦であるため、それを中心に江別小麦めんやパンなどをつくっていましたが「ハルユタカ」100%では、良い食感がなかなか作れないという話がありました。「ハルユタカ」に対して、「きたほなみ」は、全道で一番作られている中力小麦で、その「ハルユタカ」を活かすものづくりのためには、「きたほなみ」の作付けを江別で継続してもらうことはすごく大事なことです。</p>
<p>会長</p>	<p>その他何かございますか。</p>
<p>一同</p>	<p>無し。</p>
<p>会長</p>	<p>ここで審議を終了とさせていただきます。</p>
<p>会長</p>	<p>閉会の言葉</p>